

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立板橋有徳高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長＝事務局長、教務主任＝事務局
- (3) 内部委員の構成
副校長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、経営企画室長 計5名
- (4) 協議委員の構成
PTA会長、PTA役員、近隣自治会役員（2町会2名）、高島平警察署員 計5名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和5年6月16日（金） 午後3時から午後3時45分で本校校長室にて開催
出席者 近隣地域町会役員2名、高島平警察署員1名、校長・本校内部委員6名 計9名
校長あいさつ、各委員の自己紹介
協議委員委嘱、評価委員の委嘱
学校運営連絡協議会趣旨説明、学校経営計画・報告について
本校の教育活動、生徒の現状報告、各分掌及び経営企画室の経営方針について
「有徳だより21号」
第2回 令和5年11月24日（金） 午後3時から午後3時50分で本校校長室にて開催
学校の現状について（教育活動、生徒の現状報告、各分掌の中間状況について）
学校評価アンケートの実施について
教育活動に対する学校評価の内容について
「有徳だより22号」「令和5年度学校要覧」「令和5年度学校案内」
第3回 令和6年2月2日（金） 午後3時から午後3時50分で本校校長室にて開催
学校評価アンケート結果について
本校の教育活動、成果と課題の報告について
「有徳だより23号」「第15回卒業証書授与式案内」
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
令和6年1月29日（月） 書面開催（電話連絡）
今年度の学校評価の結果、協議委員の評価

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象： 41人 回収： 35人 回収率： 85.4%
 - ・12月 保護者全員 対象： 41人 回収： 36人 回収率： 87.8%
 - ・1月 地域・住民 対象： 75人 回収： 55人 回収率： 73.3%
 - ・12月 教職員 対象： 9人 回収： 9人 回収率： 100%
- (3) 主な評価項目
 - ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、ライフワークバランス
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
学校に対する満足度（無回答を除く全体数からの割合）
 - ・生徒用アンケート Q20：板橋有徳高等学校に入学してよかったと思う。
 - ・保護者用アンケート Q20：保護者として子供を本校に入学させてよかったと思いますか。
 - ・地域用アンケート Q10：知り合いの中学生に対し、本校への入学を薦めたいですか。以上の3問の肯定的な回答A及びBの割合で満足度とすることとしている。
集計結果（無回答を除く全体数からの割合）（A：はい、そう思う。B：どちらかといえばそう思う。）
 - ・生徒用アンケート Q20：91.4パーセント（昨年97.2パーセント）
 - ・保護者用アンケート Q20：100パーセント（昨年100パーセント）
 - ・地域用アンケート Q10：73.1パーセント（昨年39.4パーセント）※保護者及び地域アンケートは回答「わからない」を除いて集計
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
 - ・本校では小規模の落ち着いた校風を生かし、生徒がのびのびと力を発揮できる学習環境づくりに努めている。また、少人数多展開授業・習熟度別クラス編成授業が生徒のニーズに合致し、教員側も小規

模校の利点を生かし、生徒一人一人の個性に応じたきめ細かな指導に努めてきた。個々の生徒の個性に合わせた指導に取り組むことで、生徒たちはより細かなサポートを受けることができている。特に授業満足度が高い理由として、基礎基本の確実な定着を目指すカリキュラムポリシーの下で授業改善を行うなど、学力の定着を重視した授業が行われていることが生徒たちにとって満足感を生み出していると考察する。これからも本校は生徒たちの成長と満足度向上のための努力を継続していくことが不可欠である。

- ・今年度は、教育活動をできる限りコロナ以前の形に戻して取り組んだ。特に昨年度に続けて実施された修学旅行では、生徒たちの変容が顕著にみられ、彼ら自身の在り方生き方について深く考えるきっかけとなり、多くの教育成果を得ることができた。また、文化祭や生徒会を中心とした行事の開催など、生徒たちが主体となって学校活動を充実させることができた。生徒たちが自己表現や協力の中で学びを得ることで、充実した学校生活を送りながら成長を実感することができ、その成果が学校全体の満足度にもつながっていると考察する。今後も引き続き、充実した教育活動や生徒の主体的な取り組みを大切にしていくことで、生徒たちの成長と学校満足度の向上に向けて、さらなる努力と発展を図ることが重要である。
- ・地域用アンケートの結果から、「知り合いの中学生に対し、本校への入学を勧めたいですか。」という質問の項目において、肯定的な意見が減少している背景には、広報活動の不十分さが考えられる。学校の活動や特色が地域の方々に十分に伝わっていないためである。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・保護者や地域との協力関係を築きながら、生徒たちが成長できるよう全力でサポートしていく必要がある。教育活動の根幹を支える要素を大切にしながら、本校のスクールミッションに向かって進んで行くことで、生徒たちの成長と社会への貢献が実現されるよう、引き続き、全教職員が一致団結し、目標達成に向けて努力を重ねていくことが大切である。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・引き続き、本校の教育活動の情報発信を行う。
- ・次年度は近隣の町会与学校のより連携した活動、防災訓練等が地域と連携して実施したい。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者・地域に対して、機会あるたびに学校の教育活動を説明し理解・協力を得る。
- ・知 徳 体をバランスよく伸長し、社会に貢献できる生徒を育てる。

(2) 学習指導

- ・小規模学校の少人数指導の特色を最大限に生かし、個に応じたきめ細かい指導を行なう。

(3) 特別活動

- ・生徒の能力・適性を踏まえた適切な指導により、生徒が成就感・達成感を味わうことができる学校行事を作り上げる。

(4) 生活指導

- ・生徒の人権意識を高める取組を継続する。また、SNSの適切な使い方についても指導を徹底する。

(5) 進路指導

- ・ハローワーク等の関連機関と連携・協力体制を確立し、卒業生の進路決定率向上を目指す。

(6) 健康・安全

- ・コンディションレポートを活用し、これまでの生徒の見守りや相談体制にICTの利活用を加え、組織的に支援が必要な生徒の早期発見に努めていく。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数5人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数5名回答（アンケート結果において）

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	1	0	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

協議委員の職員会議及び企画調整会議への参加はなし。

8 その他

- ・地域アンケート回収率、回答数ともには昨年度を大幅に上回り、多くの意見を得ることができた。評価精度の向上につながった。